

【第3種郵便物認可】

2021年(令和3年)10月5日(火曜日)

神戸港/コンパス試験運用

ゲート処理時間8割減

車両滞留解消へ成果

神戸港で実施された海上コンテナの搬出入予約システム「CONPASS(コンパス)」の第2回試験運用の結果によると、トレーラー台当たりのゲート処理時間が6割から8割削減され、車両滞留の解消に成果を上げた。阪神国際港湾(外園賢治社長、神戸市中央区)が9月27日に発表した。

(根来冬太)

トラブル防止に寄与

同試験運用は8月23日から9月3日にかけて実施。海運貨物取扱業者5社、海上コンテナ輸送事業者10社が参加し、27台の車両、83個の営業コンテナを用いた。

コンパスを使用した場合の搬出時の平均ゲート処理時間(トレーラーがINゲート内で停車してから、動き出すまでの時間)は、23秒だった。コンパスでは、Pカードをカードリーダー

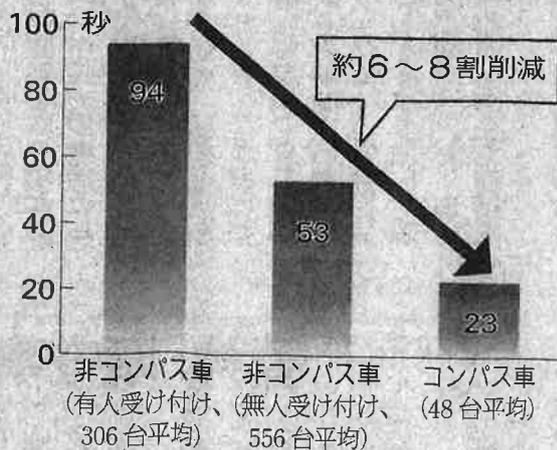
で読み取ることに入場受け付けを行い、ドライバーの携帯端末に行き先を表示する。従来の有人受け付け、運転者のタッチパネル操作による受け付けで行き先指示書を発行する方法では平

均ゲート処理時間がそれぞれ94秒、53秒で、半分以下に短縮している。

また、トラブルの削減にも寄与。コンパスの「貨物情報の事前確認」を活用することで、手続きの不備などが発生している車両の来場を制限。ドライバー側も搬出可否情報を携帯端末ですぐに把握可能なため、混乱せず対応できる。

参加者からは、「搬出可否が分かるので、ゲートに到着した後に許可が下りていないことがなくなる」「ヤードからの搬出状況伝達が不要となる」「車両の位置

平均のゲート処理時間(搬出)



(注) 非コンパス車(有人・無人受け付け)のゲート処理時間は、第1回試験運用(3月23日実施)の計測値を使用

情報の提供により、作業員がコンテナの位置を確認できるのが良い」「ゲートでのパネル操作がなく、スムーズで間違いが減る」といった声があった。

一方、課題としては「船荷証券(B/L)番号やコンテナ番号など、他の番号でも予約できるようにして欲しい」「予約期限が前日の午後3時までだったが、15時以降や当日の突発的な配送依頼にどう対応していくか心配」「コンパス専用の受け付けレーンを作るとより便利になる」「ドライバーが高齢化している中で、スマートフォン(スマホ)の操作に慣れない方もいるので、できるだけ簡略かつ分かりやすさを重視して欲しい」などが挙がった。